

# 異文化と 心通わせ

⑧

村田 佳子



お稽古事に通われていました。私が申し込んだ方いらっしゃると思いります。私もこの7月から東京・新宿にあるカルチャーセンターに通つてみることにしました。東京の人は恵まれています。

第一線で活躍する人が力を使つて直接学べる

高額な習い事が数多くある中、比較的安価なカルチャーセンターは気軽に通えそうで興味を持ち

ました。私は作文教室です。この「異文化と心通わせ」で原稿を書かせていただき

ながら毎週提出後、あれでよかつたのかな…とヨクしてきました。この日を迎えた。

新宿の大きなビルでの作文教室。どんな人が集まるのだろう…。ドキドキしながら教室に入ると

00字の宿題を送付し初日前列には80歳前後でし

ょうか、よもぎ色の蒸しパンをむしゃむしゃ食べ

る女性がいました。窓際には紫陽花色の

サマーセンター

を着て白髪をき

ちんとセットし

た女性がいまし

た。机にひじを

付きこちらを見

ています。その

女性にニッコリ

とあいさうして

みましたが「誰

?」という反応。

特に笑顔はあり

ません。見渡す

と十数名。「あれ、教室間違つたかな?」。す

ると間もなくし

て講師の先生が入ってきました。

50年以上に渡つてジャーナリストとして活躍されている方です。

ジーンズに若草色のジャケット、白いシャツ。颯爽としていてとても70歳代後半には見えません。

ジャケットを脱ぎながら

がいます」。「え! ひとり!」。私だけ、新入生だったのです。ほかのさんは長く続いているお仲間のようです。20年

続続している方もいると

あります。先輩

スは、はつきりアドバイ

方にはそういう文化に

スするから。そういうの

がお稽古事に通われてい

ました。私が申し込んだ

のは作文教室です。この

「異文化と心通わせ」で

原稿を書かせていただき

ました。私が申し込んだ

のは作文教室です。この

「異文化と心通わせ」で

原稿を書かせていただき